

さあ

陶史の森へ行こう!

毎年たくさんの人でにぎわう「陶史の森まつり」が、今年も9月23日（木・祝）に開催されます。

昭和50年にオープンして以来、自然観察・自然学習の施設を備えた公園として、市内はもとより、市外・県外からも訪れる人が多いこの公園。年間の来園者数は、6万人以上を数えます。

今回は、そんな陶史の森の魅力を紹介します。



陶史の森の生い立ち

崩壊の山々

土岐市の山々では、約千年の昔から、陶磁器製造の燃料や家庭燃料として広く濫伐が行われていました。加えて土岐川流域の地質が非常に弱く、豪雨などによる侵食を受けやすかったこともあり、大規模な荒廃地ができました。荒れた山々では、山崩れや洪水などが発生し、大きな被害をもたらしていました。

こうした山々の復旧のため、昭和七年から四十四年にかけて行われた国直轄の治山工事や、大正九年から昭和五十八年にかけて行われた県や市による治山工事によって、今日、市内の山々はかつての緑を取り戻すことができました。

治山工事が行われた面積は、国・県・市合わせておよそ千八百七十ヘクタール（ナゴヤドーム約四百個分）にもおおよびます。



▲ 駄知町南山上空から中央丘陵を望む（昭和29年ころ）



▲ 治山工事の様子

中央丘陵に広がる百四ヘクタールの豊かな緑と、たくさんの生物相に恵まれている陶史の森も、かつてはそうした山々の一つでした。

昭和五十年の産声

陶史の森は、県と市が保健保安林として中央丘陵地帯の森林を生かして整備した自然公園で、昭和四十七年から造成を開始し、昭和五十年にオープンしました。森内には、安土の道、織部の道など九つの遊歩道や、いこいの広場、きん舎（鳥園）、ヒツジ牧場などが造られ、多くの市民の皆さんに利用されてきました。

特に平成元年から二年間をかけて森内に整備された「土岐いきものふれあいの里」には、トンボの湿地やホタルの里、カブトムシの森などが造られました。ネイチャーセンターを拠点としたこれらの施設では、身近な自然を題材としたさまざまな教室を開催し、自然と親しみ、学習する場を子どもたちはもちろん、広く市民の皆さんに提供しています。



▲ ネイチャーセンターで開催される昆虫教室の様子



▲ 週末には、たくさんの家族連れなどにぎわういこいの広場



▲ 四季折々の自然を楽しむことができる遊歩道

feature articles

feature articles

特集 さあ 陶史の森へ行こう！



●カワセミ
体長17cmほどで、水辺の杭などに止まり、魚を見つけると水面に飛び込み捕食します。陶史の森の林泉の池で見られます。



●アカゲラ
体長は23cm程度で、枯死材の中にある甲虫の幼虫などを食べます。枯れ木に樹洞を掘って巣にします。



●サギソウ
シラサギの姿からその名が付いた美しい花で、絶滅危惧種です。陶史の森の湿地に自生しています。

学ぶ

自然と親しみ、学ぶことを目的として整備された、陶史の森「土岐いきものふれあいの里」では、一年を通してさまざまな教室が開かれています。

年間八百人以上の市民の皆さんが、こうした教室に参加しているほか、約七千人の方がネイチャーセンターを訪れ、身近な自然について学んでいます。



ミツバチ教室は巣箱を間近で見ることができるほか、実際に絞ったハチミツの試食もできるとあって、毎年大人気



子どもたちに人気の葉脈しおり作り教室



季節を感じるリース作り教室



収穫が楽しみなシイタケほだ木作り

■ 通年

●野鳥観察

●天体観測教室 など

■ 春 (三月～五月)

●鳥を呼ぼう・餌台の設置

●自然教室・春を待つ木など

■ 夏 (六月～八月)

●ミツバチ教室

●昆虫教室

●紙すき教室

●葉脈しおり作り教室 など

■ 秋 (九月～十一月)

●草木染め教室

●植物画を描こう

●リース作り教室 など

■ 冬 (十二月～二月)

●切り絵年賀状作り

●シイタケほだ木作り など

feature articles

feature articles

特集 さあ 陶史の森へ行こう！



陶史の森 に住む仲間



●カブトムシ
陶史の森のクヌギやコナラの木にいる子どもたちの人気者です。昔から雑木林など人の暮らしに近い所で生活しています。



●シヨウジョウバカマ
常緑の多年草で、ギフチョウの吸蜜植物です。森内の多湿な場所に生えています。花の見ごろは3月中旬から4月中旬です。

触れ合う

陶史の森は、貴重な虫や植物と触れ合えることはもとより、身近な生き物と触れ合うことのできる場所です。

きん舎（鳥園）などには、クジャクやキジ、インコなどの鳥たちをはじめ、ウサギなどの小動物が飼われています。また、ヒツジ牧場には四頭のヒツジが飼われており、春には毛刈りが行われます。陶史の森まつりでは、この毛を使った毛糸紡ぎ体験が行われています。

そのほか、蝶の館にはギフチョウやアゲハチョウ、モンシロチョウなどが放たれてお



ヒツジの毛刈りには、近隣の園児が見学を訪れ、初めて見る毛刈りに歓声が上がります。

り、四月上旬のギフチョウの放蝶会では、森内や蝶の館に約五百匹のギフチョウを放ちます。

このように、自然や生き物と触れ合える機会を提供するとともに、一年を通じて開催するさまざまな教室によって、自然の大切さ、素晴らしさを知っていただく陶史の森に、皆さんもぜひ一度出かけてみませんか。

◇ 陶史の森で開催される催し物は、本紙十五日号で毎月ご案内しています。お問い合わせは、陶史の森ネイチャーセンター（☎5144）へどうぞ。



毎年恒例のギフチョウの放蝶会は、子どもたちもちろん、写真愛好家の姿も多い。



「今回で2度目です」

小栗弘之さん（御嵩町）
山田淳子さん（多治見市）

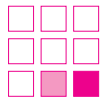
きれいな公園で、小さい子には動物を見せられるし、大きい子は遊具で遊べるからいいですね。お金がかからないというのも魅力です。



「20年ぶりに来ました」

加藤武司さん（泉町）

まだ娘が小さかった時に一度来ただけで、今回はほぼ20年ぶりに来たこととなります。遊具なども整備されて随分よくなりましたね。



陶史の森周辺の施設

陶史の森を中心とした中央丘陵地帯には、道の駅「どんぶり会館」、セラテクノ土岐のほか、陶史の森に隣接して、雲五川せせらぎ公園や陶史の森「不老マレットゴルフコース」などがあります。
休日などに家族そろって出かけてみてはいかがでしょうか。



■セラテクノ土岐



■道の駅「どんぶり会館」



■陶史の森「不老マレットゴルフコース」



■雲五川せせらぎ公園

9月のイベント

第1回

土岐市民マレットゴルフ大会

- 日時** 9月23日（木・祝）午前9時30分～
小雨決行・雨天中止の場合は9月25日（土）に順延
- 場所** 陶史の森「不老マレットゴルフコース」
- 資格** 市内在住・在勤の方
- 参加費** 1人100円 ※用具の無料貸与あり
- 競技方法** 個人の部＝18ホールでスコアで競います。
団体の部＝4人1チームの合計スコアで競います。
- 表彰** 個人の部、団体の部ともに1位から6位に賞状と賞品を授与。そのほか、ホールインワン賞などもあり。
- 申し込み** 9月15日（水）までに、各支所またはスポーツ振興課へお申し込みください。

詳しくは、スポーツ振興課（内線277）へどうぞ。

第25回

市制50周年記念事業 陶史の森まつり

- 日時** 9月23日（木・祝）午前9時30分～
小雨決行・雨天中止の場合は9月25日（土）に順延
- 主な催し**

キキョウの種無料配布	10:30～14:30
婦人会バザー	10:30～14:30
ネイチャーセンター展示	10:30～14:30
毛糸紡ぎ体験	10:30～14:30
ちびっこ相撲大会	10:30～12:00
ネイチャーゲーム	10:30～12:00
緑化相談コーナー	10:30～12:00
丸太切り体験	10:30～14:30
おにぎりの無料配布	12:00～（無くなり次第終了）
しおりづくり	10:30～14:30
ちびっこマスカみどり大会	13:30～

詳しくは、農林課（内線246）へどうぞ。

feature articles

feature articles

特集 さあ陶史の森へ行こう！

